

なめがた大使 小林光恵さん 書きおろしエッセイ

五感でキャッチ！なめがた漫遊記 第11回

愚問

デーブ大久保さん似の男性が、道の駅たまつくり「こいこい」のデッキのテーブル席にひとりで座っていた。

彼は、晴れた午後の霞ヶ浦に遠い目を向けながら小さくない音量で――「威風堂々」のメロディーだとわかるくらい――鼻歌を歌っていた。素足にサンダル履きで、何かちよつとした買い物をしたらしい小さなレジ袋を持っていた。となりのテーブルに座っていた私は、地元の方かな、と思い、彼に一つ質問を試みたくなった。しかし、案外内気なためそれができないでいると、彼が私に顔を向けて言った。「どっから来たの？」

まさかの展開に驚いた私は目を丸くして絶句。すると彼はニコリとして、「そんなビックリしなくてもいいでしょうよ。オレに話しかけたそうな顔してっから、言ってみただから」

「あつ、ありがとうございます。よくわかりましたね。あの、行方市の方たちは、カラオケをやりたくなったとき、どちらに行くのでしょうか？」

玉造在住の親友から前に「行方市にはカラオケをやる場所はない」と聞いたことがあり、その後ネット検索し

てカラオケのできるスナック二軒くらいあるものの、カラオケボックスやルームはないと知り、「どのへんまで出てやるのだろうか」という素朴な疑問を持っていたのだった。

彼は、何も言わずに顔を霞ヶ浦方向に戻すと、「田んぼから聞こえてくるカエルの合唱もいいもんだなあ。ケロケロもいいし、ゲロゲロも」と独りごちながら立ち上がり、私のほうを向いて人なつこい笑顔になって「愚問かな」と言っ、その場をあとにした。どういう点で愚問だったのか――。スーパールの移動販売のように、カラオケルームの移動営業もよいのではないだろうか、などとともに理由をあれこれ考え中です。

小林 光恵さん



文中の彼に、私がどこから来たかを答えませんでした。

行方市出身。つくば市二の宮在住。行方市のスーパー移動販売の品ぞろえに、生花も入っていたならうれしい方、多いのではないかしら。どうでしょう。

市公式ホームページ内で「行方帰省メシ」連載中。
サイトはこちらから▶



地域おこし協力隊

連載コラム⑪

【田沼隊員が退任しました】

行方市として4人目となる地域おこし協力隊の田沼絢子さんが、令和6年度をもって退任しました。

田沼隊員は令和2年7月に着任し、なめテレ（なめがたエリアテレビ）の普及活動、伝送路（光ケーブル）を利用した次世代情報発信の企画・提案に取り組んできました。

また、鹿行地域の魅力発信や関係人口創出などに向け、各市の行政圏を超えた連携事業の企画・運営を目的として、鹿行他市の協力隊員と共にNPO法人鹿行地域おこしLab.を立ち上げ、行方市に関わる方々を増やすためのイベントなどを実施してきました。

田沼隊員は、退任後も行方市に残り、協力隊としてのさまざまな経験を生かして、鹿行地域おこしLab.や、自身で設立した株式会社up toの代表として、今後も行方市を盛り上げていく事業を展開していく予定とのことでした。



①



②



③



④



▲田沼 絢子 隊員

【令和2年7月1日～
令和7年3月31日】
なめテレの普及活動や次世代情報発信を担当。鹿行地域おこし協力隊の連携にも力を入れてきました。

これまでの活動

- ① いばらき暮らしセミナー（東京都）
- ② 笠間市立友部中学校 職場体験・校外学習
- ③ 水郷潮来あやめまつり（潮来市）
- ④ 地域ベンチャー留学、行方市に滞在した学生と一緒に